

「号外！備える。かわさき」読者アンケート結果について

洪水や土砂災害などの風水害へ備えていただくことを目的に、6月21日から7月31日にかけて全戸配布を行った、防災タブロイド誌「号外！備える。かわさき」において、防災に関する読者アンケートを実施しました。調査結果から、ハザードマップを「知らない。見たことがない。持っていない。」という方が7割近くおり、全戸配布が有効であるという結果となりました。

調査結果については、クロス集計を行い、今後の防災対策の基礎資料として活用してまいります。

1 調査実施期間

平成30年6月21日（木）～9月7日（金）

2 調査方法

ウェブサイトによる調査

※抽選でプレゼント進呈（防災食7日間セット…1人、防災食3日間セット…5人）。

3 調査項目

- (1) 自宅がある地域のリスク認識度
- (2) 避難行動の事前確認度
- (3) 各ハザードマップ、防災アプリ等の認知度
- (4) ローリングストック法活用時の家庭備蓄状況

4 回答状況

- ・回答数：869人（男性229人、女性640人）

5 調査結果

別紙 「『号外！備える。かわさき』読者アンケート調査結果



「号外！備える。かわさき」読者アンケート結果

1 アンケートの概要

(1) 調査方法

ウェブアンケートフォームでの調査

(誌面からQRコード及びURLにてウェブサイトへ誘導)

※抽選でプレゼント進呈（防災食7日分×1、防災食3日分×5）

(2) 調査人数

869人

(3) 調査期間

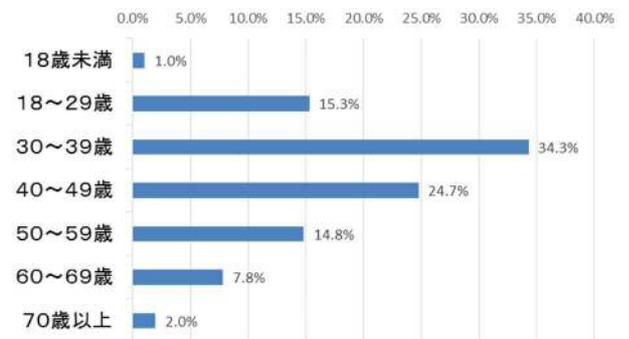
平成30年6月21日～9月7日



2 回答者の属性

(1) 年齢

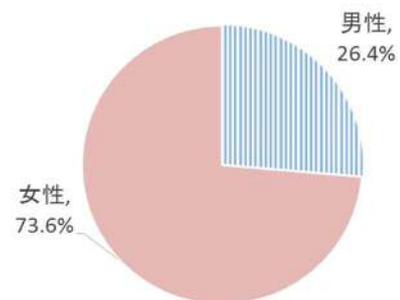
	基数(人)	構成比(%)
18歳未満	9	1.0%
18～29歳	133	15.3%
30～39歳	298	34.3%
40～49歳	215	24.7%
50～59歳	129	14.8%
60～69歳	68	7.8%
70歳以上	17	2.0%
全体	869	100.0%



・調査をQRコードからウェブサイトに誘導して実施したため、回答者の中央値が「30～39歳」と若年層中心となりました。

(2) 性別

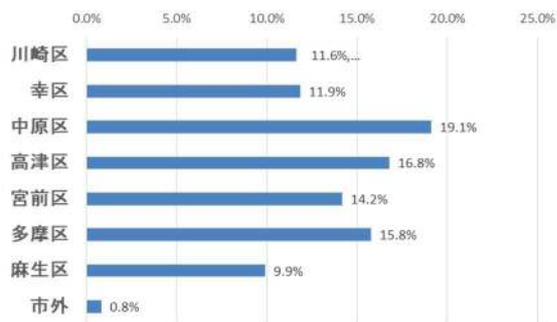
	基数(人)	構成比(%)
男性	229	26.4%
女性	640	73.6%
全体	869	100.0%



・回答者は女性が73.6%と多数を占めました。

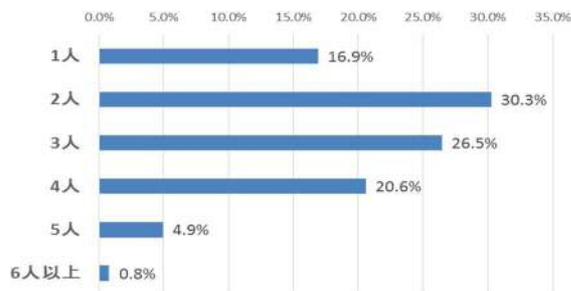
(3) 居住区

	基数(人)	構成比(%)
川崎区	101	11.6%
幸区	103	11.9%
中原区	166	19.1%
高津区	146	16.8%
宮前区	123	14.2%
多摩区	137	15.8%
麻生区	86	9.9%
市外	7	0.8%
全体	869	100.0%



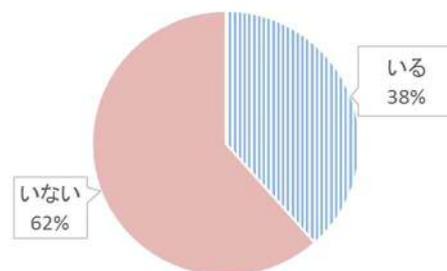
(4) 同居人数 (本人含む)

	基数(人)	構成比(%)
1人	147	16.9%
2人	263	30.3%
3人	230	26.5%
4人	179	20.6%
5人	43	4.9%
6人以上	7	0.8%
全体	869	100.0%



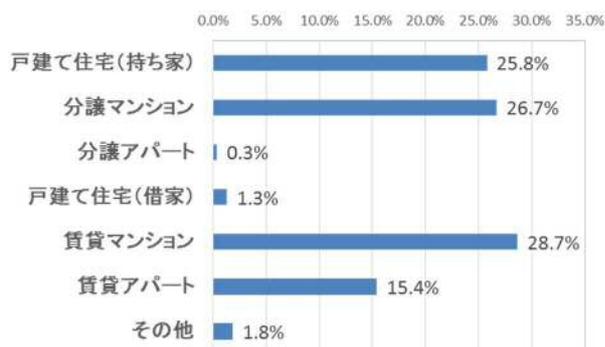
(5) 中学生以下の子どもの有無

	基数(人)	構成比(%)
いる	334	38.4%
いない	535	61.6%
全体	869	100.0%



(6) 住まいの状況

	基数(人)	構成比(%)
戸建て住宅(持ち家)	224	25.8%
分譲マンション	232	26.7%
分譲アパート	3	0.3%
戸建て住宅(借家)	11	1.3%
賃貸マンション	249	28.7%
賃貸アパート	134	15.4%
その他	16	1.8%
全体	869	100.0%

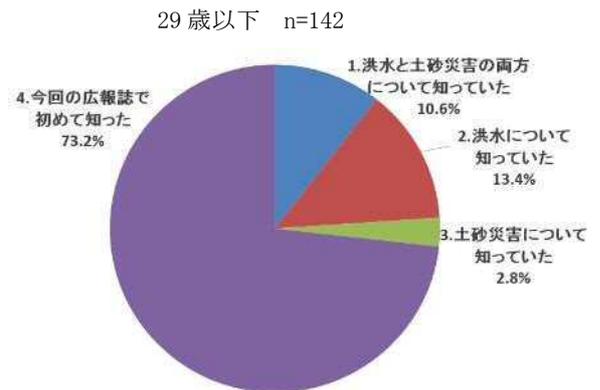
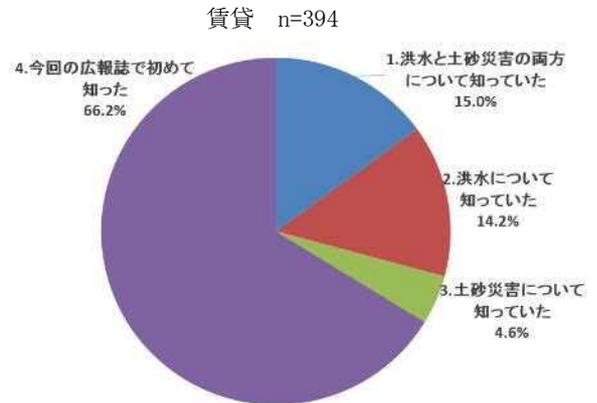
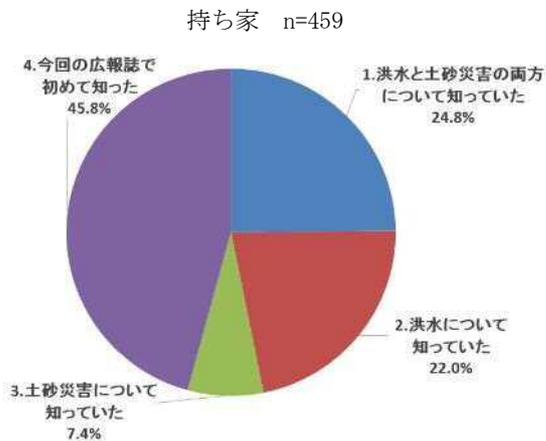
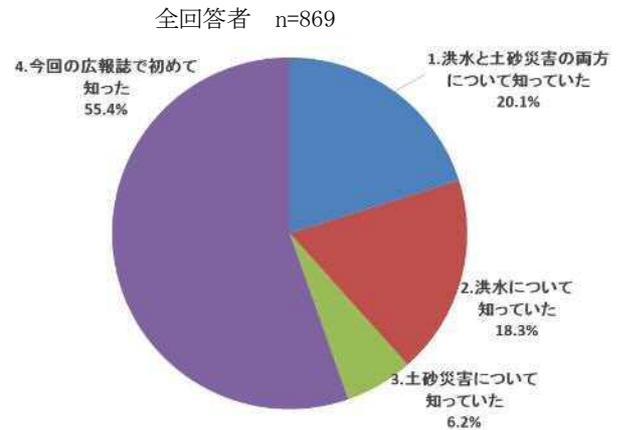


3 アンケート結果

問 1

川崎市内には、大雨により洪水（河川の氾濫）や土砂災害（崖崩れ）が発生し、その影響を受ける可能性のある区域があります。御自宅がこれらの区域に含まれるか知っていますか。（1つ選択）

	基数(人)	構成比(%)
洪水と土砂災害の両方について知っていた	175	20.1%
洪水について知っていた	159	18.3%
土砂災害について知っていた	54	6.2%
今回の広報誌で初めて知った	481	55.4%
全体	869	100.0%

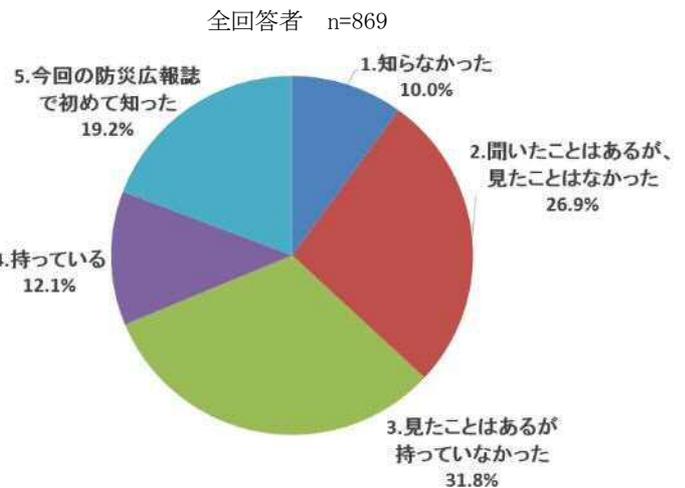


- ・全回答者では、「今回の広報誌で初めて知った」が 55.4%と、自宅の災害リスクについて把握していなかった方が半数超となっています。
- ・「今回の広報誌で初めて知った」の割合は、賃貸（66.2%）、単身世帯（72.1%）、29歳以下（73.2%）で特に高くなっています。
- ・性別、子どもの有無による傾向の違いは見られませんでした。

問2

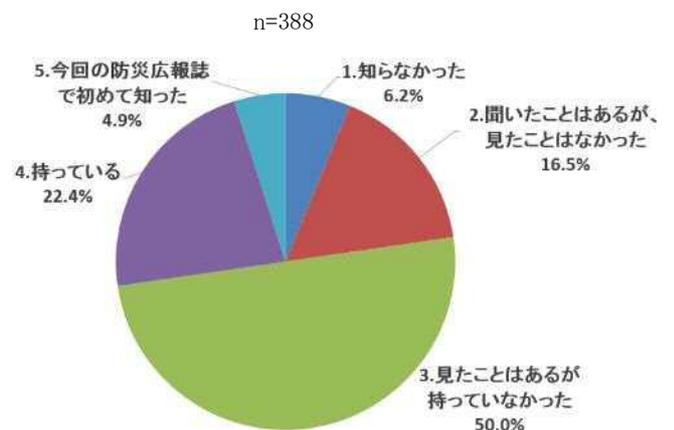
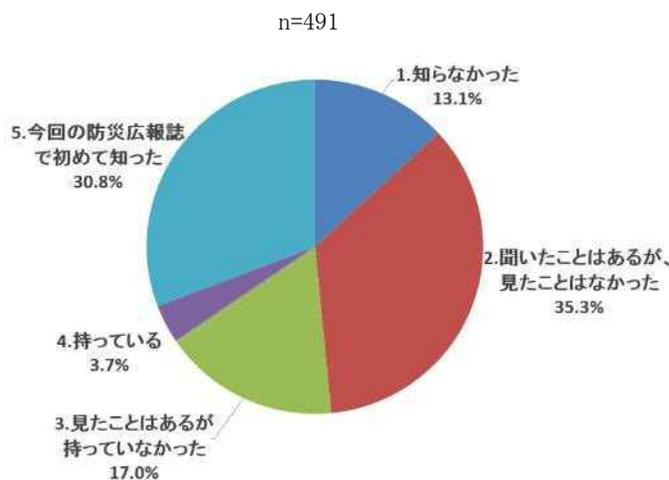
洪水や土砂災害からの避難が必要な区域を確認し、避難方法を考えるためには、ハザードマップが有効です。洪水や土砂災害のハザードマップを知っていましたか。（1つ選択）

	基数(人)	構成比(%)
知らなかった	87	10.0%
聞いたことはあるが、見たことはなかった	234	26.9%
見たことはあるが持っていなかった	276	31.8%
持っている	105	12.1%
今回の防災広報誌で初めて知った	167	19.2%
全体	869	100.0%



問1で「今回の広報誌で初めて知った」と回答
（自宅の災害リスクを把握していない）

問1で「今回の広報誌で初めて知った」以外を回答
（自宅の災害リスクを把握している）

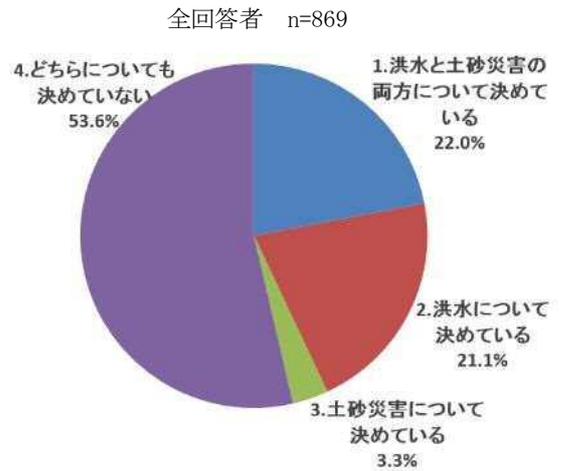


- ・ハザードマップを「聞いたことがある」(26.9%)、「見たことはあるが持っていなかった」(31.8%)と比較して、「持っている」(12.1%)が低く、ハザードマップの配布が不十分となっています。
- ・属性（性別、年齢、住居形態、世帯人数、子の有無）による傾向の違いは見られませんでした。
- ・自宅の洪水又は土砂災害のリスクについて把握している人（問1で「今回の広報誌で初めて知った」以外を回答。）は、ハザードマップについて、「見たことはあるが持っていなかった」(50.0%)、「持っている」(22.4%)とリスクを把握していない人より高く、ハザードマップの周知や配布に一定の効果があることが推測されます。

問3

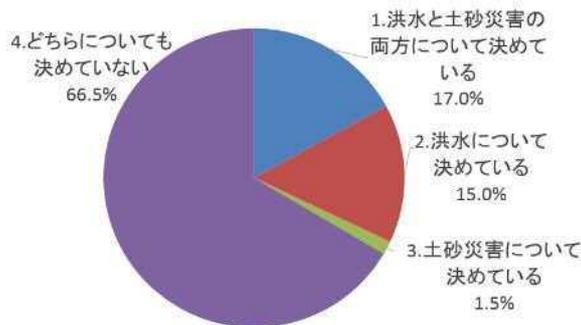
洪水や土砂災害からの避難には、避難所への避難のほか、近隣の高い建物への避難や、屋内の安全な場所への避難など、いくつかの避難方法があります。御自宅の状況に応じて、いざというときの避難行動を決めていますか。（1つ選択）

	基数(人)	構成比(%)
洪水と土砂災害の両方について決めている	191	22.0%
洪水について決めている	183	21.1%
土砂災害について決めている	29	3.3%
どちらについても決めていない	466	53.6%
全体	869	100.0%



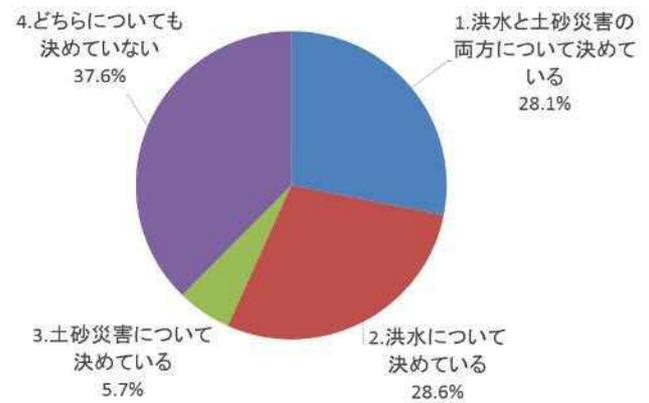
問1で「今回の広報誌で初めて知った」と回答
（自宅の災害リスクを把握していない）

n=491



問1で「今回の広報誌で初めて知った」以外を回答
（自宅の災害リスクを把握している）

n=388

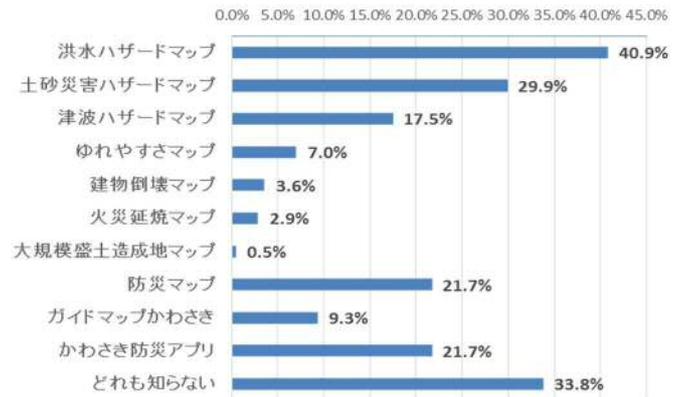


- いざというときの避難行動を決めていない人が 53.6%となっています。
- 属性（性別、年齢、住居形態、世帯人数、子の有無）による傾向の違いは見られませんでした。
- 自宅の洪水又は土砂災害のリスクについて把握している人（問1で「今回の広報誌で初めて知った」以外を回答。）は、リスクを把握していない人よりも、いざというときの避難行動について決めている割合が高くなっています。
- 自宅の災害リスクを把握している人であっても、37.6%の人がいざというときの避難行動について決めていません。

問4

川崎市では、地震や風水害（洪水や土砂災害）に関する避難地図やハザードマップとして、次のような地図やウェブサイトを公開しています。知っているものすべてを選択してください。（複数選択）

	基数(人)	構成比(%)
洪水ハザードマップ	355	40.9%
土砂災害ハザードマップ	260	29.9%
津波ハザードマップ	152	17.5%
ゆれやすさマップ	61	7.0%
建物倒壊マップ	31	3.6%
火災延焼マップ	25	2.9%
大規模盛土造成地マップ	4	0.5%
防災マップ	189	21.7%
ガイドマップかわさき	81	9.3%
かわさき防災アプリ	189	21.7%
どれも知らない	294	33.8%

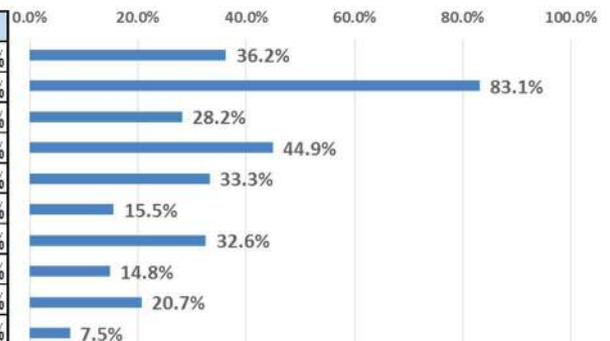


- ・いずれのハザードマップの認知度も半数以下となっています。
- ・「土砂災害ハザードマップ」については、アンケート集計中の7月28日に台風12号接近に伴い、川崎区以外6区の土砂災害警戒区域に避難準備・高齢者等避難開始を発令したにもかかわらず、認知度が29.9%と低くなっています。

問5

ハザードマップの活用・認知度向上のために、有効と思われる方法について、すべてを選択してください。（複数選択）

	基数(人)	構成比(%)
公共施設等の掲示板への掲載	315	36.2%
各家庭への全戸配布	722	83.1%
危険度が高い地域を対象とした説明会	245	28.2%
災害種別ごとのハザードマップを集約した冊子の作成	390	44.9%
市ホームページへの掲載	289	33.3%
市地図インターネットサイトへの掲載	135	15.5%
市スマートフォンアプリへの掲載	283	32.6%
民間インターネットサイトへの掲載	129	14.8%
民間スマートフォンアプリへの掲載	180	20.7%
その他	65	7.5%



自由回答（多数意見）

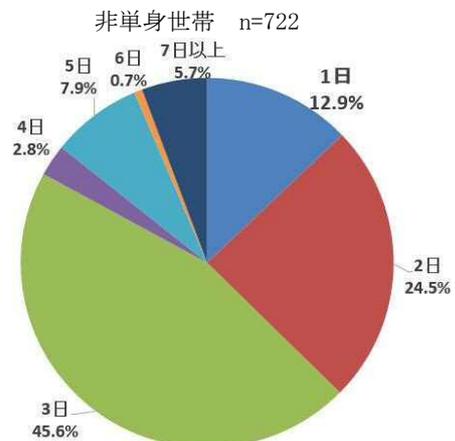
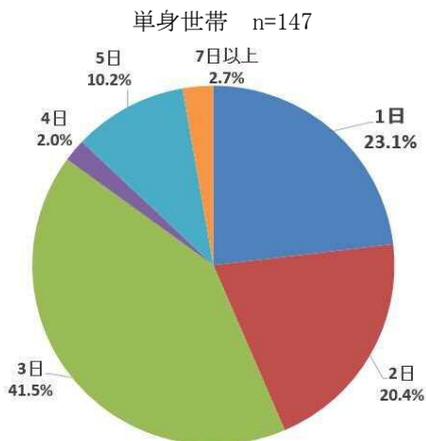
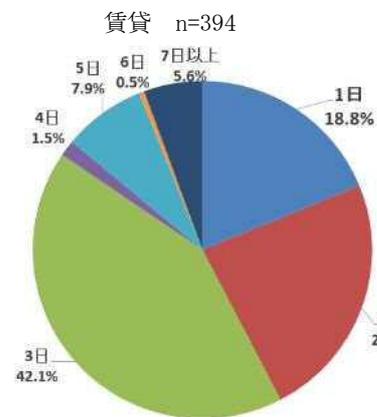
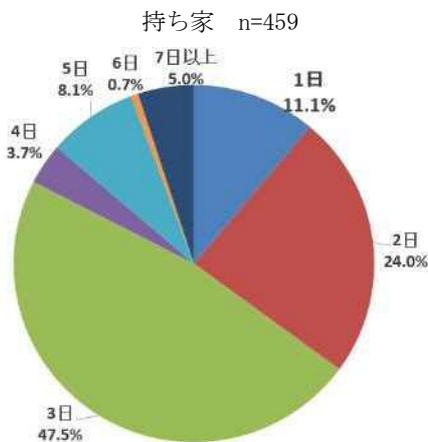
- ・学校、幼稚園、保育園での説明会や資料配布：17件
- ・日常利用する施設（駅、商店街、ショッピングセンター等）での配布、：12件
- ・SNS（Twitter、ライン、Facebook）の活用：5件
- ・回覧版での周知：4件

- ・「各家庭への全戸配布」が83.1%と割合が高くなっています。
- ・インターネット経由でのアンケートにもかかわらず、「公共施設等の掲示板への掲載」、「ハザードマップを集約した冊子の作成」等、非ICT媒体の割合が高くなっています。
- ・自由回答では、学校、幼稚園、保育園等の活用に関する意見が多くなっています。

問6

災害に備えて長期間保存できる非常食を購入するのではなく、水、食料や日用品を少し多めに購入し、日常生活で消費しながら備蓄していく「ローリングストック法」という方法があります。あなたは、災害が発生し、水や食料が手に入らなくなった時に、何日間生活することができますか。(1つ選択)

	基数(人)	構成比(%)
1日	127	14.6%
2日	207	23.8%
3日	390	44.9%
4日	23	2.6%
5日	72	8.3%
6日	5	0.6%
7日以上	45	5.2%
全体	869	100.0%



- ・日常生活用に家庭内に存在する食料が、6割の世帯で3日以上となっています。
- ・属性(性別、年齢、住居形態、世帯人数、子の有無)による傾向の違いは見られませんでした。

問7

今回配布された防災広報誌への感想や、今後発行するとしたら取り上げて欲しい内容等がございましたらご記入ください。(自由回答)

記入された意見を4分野に分類しました。意見を記入された方の数は558名ですが、複数の分野にわたる意見については分割しているため、意見総数は635件となっています。

以下に、各分野の主な意見を掲載します。

○今回の防災広報誌について

- ・ハザードマップを見たことが無かった。住んでいる地域にリスクがあるのを知らなかった(79件)
- ・西日本豪雨や大阪北部地震もあり、よいタイミングでの配布であった(48件)
- ・家族で読んだ。子どもや家族と防災について考えるいい機会となった(39件)
- ・ハザードマップが細かくてわかりづらかった(25件)
- ・ハザードマップ浸水深の色別表示がわかりづらい(21件)
- ・イラストやデザインがかわいくて見てみようという気になった。子どもも興味を持つと思う(24件)

○今後の防災広報に対する要望

- ・定期的に発行した方がよい。最新情報も入手できるし、防災に対する意識も高まる。(28件)
- ・全戸配布したのがよかった。興味がある人しかホームページは見ない。(27件)
- ・紙媒体がよい。ネットやスマホは使えない人もいる。(17件)
- ・ネットやアプリを活用するのがよい(14件)
- ・ハザードマップをまとめた冊子が欲しい。立派な冊子だと捨てられない(15件)
- ・今回くらい(8ページ)の情報量のほうがよい(16件)

○今後取り上げて欲しい内容

- ・家庭備蓄、ローリングストック法、非常持出品に関すること(49件)
- ・災害時のトイレ対策(6件)
- ・避難所の実態(備蓄品、収容人数)、避難生活に関すること(11件)
- ・ペットに関する備え、同伴での避難について(8件)
- ・地震への対策(14件)
- ・洪水以外のハザードマップ、ゆれやすさマップ、液状化マップ等(13件)
- ・災害発生後(インフラ、電気、ガス、水道、食料)のこと、被災者の経験談(5件)
- ・子ども、乳幼児、妊婦向けの防災情報(14件)
- ・災害弱者(高齢者、障がい者)向けの防災情報(4件)

○市への要望、意見

- ・防災無線が聞こえない(5件)
- ・指定避難所が不適ではないか(浸水想定区域や土砂災害警戒区域内にある、遠い等)(5件)